

進路だより

箕輪進修高校 進路指導室

2011.6.2

No. 18



”ゆでガエル状態”になるな！

熱いお湯の中にカエルを入れると驚いて飛び出し逃げていきます。ところが常温の水にカエルを入れて、少しずつ水を熱していくと、カエルは逃げず、熱湯になったときは逃げる力を失いそのままゆで上がって死んでしまうということです。これは欧米で古くからいわれている教訓です。

第1回目の定期テストが終わりましたが、今回は本気になり取り組めたでしょうか。まだ少なからぬものはそれほど本気になれなかったようにも見受けられますがどうでしょうか。

高校生の就職戦線も2年前から大変厳しい状況になっています。この厳しい現実には自ら気付き策をとれば進路を決めることができますが、周りの何とかなるだろうというだれた雰囲気の中にのほほんとつきりきり、この厳し現実を軽く見過ぎ、対策を怠れば結局最後にゆで上がり就職の道を逃す可能性があります。

先生や親たちは、何とか早く目を見開いてほしいという思いより、様々なアドバイスをしています。そのアドバイスをきちんと受け止め、卵の殻を自分で割らなければ食(職)にありつけません。周囲はアドバイスしか出来ません。そうしたアドバイスをきちんと聞き入れ皆さん自身が行動を起こさなければ、何の解決も図れません。

地球上の生物の歴史を振り返ってみれば、地球上で生き残ってきたものは“強い生物ではなく、環境にうまく適応できた生物”です。状況を的確に判断し、柔軟に変化に応じた対応ができたもののみが生き残れる現実を、もう一度かみしめて欲しいものです。

職に就くとは



皆さんは就職、進学希望に関係なく遅かれ早かれ何らかの職に就かなくてはなりません。職に就くということは自分や家族の生計を支えるための糧を得るためです。と同時に自分自身の自己実現を図ることにもなります。仕事は「生活のために仕方なくやっている」といつも受け身的に捉えているだけでは何ともつまらないものです。自分のやりたい仕事に就ければ最高ですが、全ての人がそんなわけにはいきません。では、仕事をやっていて楽しいと感ずるのはどういう時だと思えますか。

それは自分がやりがいがあると感ずるときでしょう。自分のやったことが周囲から喜ばれたり認められたり、自分の考えていたことをとことんやり遂げたときそんな思いに浸れるものでしょう。それは楽をして得られるものではありません。やっている時はむしろつらいことの方が多いかもしれませんが、やり遂げたときそこに充実感とやりがいを感じることでしょう。つまりそれが自己実現です。

私達は仕事を通して、日々のやりがいや生き甲斐を感じていくものです。またそうしたやりがいや生き甲斐こそが私達の日々の生きるエネルギーの源なのです。自分の就いている仕事の中から如何にやり甲斐や生き甲斐を見出すのかは個人の仕事に向かう姿勢と、気持ちの問題です。前向きに関わろうとすればいつしかそうしたやりがいが見出せるでしょう。